



令和元年度 総会及び講演会報告

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 1) 開催日 | 令和元年5月25日(土) | 3) 時 間 | 第一部 理事会 13:15~13:45 |
| 2) 場 所 | ヒューリックホール3階 [ROOM3] | | 第二部 総 会 14:00~14:30 |
| | | | 第三部 講演会 14:45~16:30 |

令和元年度 総会議事

- | | |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1) 開会
総会成立の確認、議長及び議事録署名人選任 | ②2019年度事業計画及び収支予算について
第3号議案 2019年度事業計画及び予算 |
| 2) 議題
①2018年度事業報告及び収支決算について
第1号議案 2018年度事業報告及び会計報告
第2号議案 2018年度 監査報告 | ③その他 |
| | 3) 講演会
①白濱理事長 挨拶
②講演
・堀野 雅祥 先生
・齋藤 智也 先生 |
| | 4) 会員交流懇親会 |

平成30年度 主な事業報告

今期は、前年度に引き続き研修会などにより、本会趣旨の普及啓発に努めるとともに、医療衛生支援災害支援に関する講師の派遣、諸団体との交流等の事業を実施した。

- 1) 災害医療に関する教育研修会、訓練等の講師派遣事業を各種団体の要請に応じて積極的に行った。

事業の実施に関する事項

事業名	内容	実施日時	実施場所
災害医療に関わる 教員研修会に講師の派遣	「老年介護 病態・疾患論」講演	平成30年10月	千葉科学大学看護学科
	「日中災害医学会」講演 ※日本の災害医療ロディスティック	平成30年10月	中国 天津大会館
	「日本の災害医療の現状と課題」	平成30年12月6日	富山大学
	メディテック・ジャパン2019日本の災害医療 「災害医療と国際看護」講演	平成31年3月19日 平成31年3月	ビックサイド 成増高等看護学校

- 2) 講演会を総会後に実施した。
 3) 30年度事業報告を中心とした「ニュースレター第13号」を発行した。
 4) パシフィックパートナーシップ20018 (PP18) は、自衛隊主催で各国政府及びNGOとの協力で国際災害救難活動を実施する医療活動で、今回はスリランカに会員5名を派遣した。(医師3名、歯科医師1名、看護師1名が参加。)
 5) ホームページの更新を行った。

令和元年度 主な事業計画

- 1) 講演会の開催
 ①5月25日の総会終了後、講演会を開催する。
 ・講演 堀野 雅祥 先生
 杏林大学 高度救急救命センター
 「パシフィック・パートナーシップ2019 (PP19、ベトナム：フーイエン) に参加して」
 ・講演 齋藤 智也 先生
 国立保科学院 健康危機管理研究部上級主任研究員
 「マスギャザリングと健康危機管理」
 ②他のNGOとの共同開催で災害医療関係の講演会を初秋に開催。
- 2) 講師派遣、教育研修の実施
 ①防衛省主催のパシフィック・パートナーシップ2019「ベトナム」に会員1名を派遣する・・・(医師1名)
 ②医療関係団体との交流事業
 ・災害医療関係企業の新製品に関する協力。
 ・他の一般社団法人への講師の派遣。
 ③福島の2020オリンピック・パラリンピック事業推進に資する教育研等への協力。
- 3) IEMS・Japanの広報
 ・災害関連学会などで活動実態をPRすることを検討する。
- 4) ニュースレターの発行：会員、関連団体に対し配布。
 5) ホームページの充実：新春講演会・総会関係・PP19関係等。
 6) その他

パシフィック・パートナーシップ2019 (PP19、ベトナム：フーイェン) に参加して

杏林大学医学部付属病院高度救命救急センター
堀野 雅祥

今回PP19に国際緊急医療・衛生支援機構（イームス）から参加した。昨年に比して日本からの参加者は少なく、私が滞在したベトナムでの活動では自衛官が15名（医官4名、看護師4名）、NGOから救急医2名であった。

昨年まで現地での活動はside by sideが中心であり、実際に診察を行っていたとのことであった。しかし今年はPhu Yen総合病院とPhu Yen省が昨年開設した救急システムの構築に力を入れており、救急医療に関するSubject Matter Expert Exchange（以下SMEE）が中心であった。米国のEmergency Medical Service（以下EMS）を専門とする救急医とベトナムの保健省職員、救急医、救急救命士とEMSについて意見交換を行った。1日の流れは午前中に私たちPP19のスタッフによるプレゼンテーションを行い、午後ベトナムの方々が3つのグループに分かれて午前中の内容についてグループディスカッションを行うという形であった。内容はPhu Yen省の地図を実際に用いながら、外傷センター

の配置方法や限られた資金の中でのEMSのモデル作成など多岐にわたった。この中で私は3回プレゼンテーションする機会をいただいた。もともとは1回と聞いており日本のEMSの歴史についての資料を作成し持参したが、現地で話を進めていく中で東京のEMS、Call system、東日本大震災の被害についてプレゼンテーションのリクエストがあり、NGOの医師と分担し話をさせていただいた。質疑応答もあり、良いディスカッションができた。この内容がベトナムの救急医療の成長に少しでも役立てばと思う。

自衛官の方と今後のPPについて話したが、PP対象国はEMSの発展を目指しており、EMSの見識を得た救急医を今後も求めていこうとのことであった。

最後になるが、今回NGOとして参加させていただいたイームスの事務局の皆様をはじめ、防衛省、自衛官の方々に心から感謝したい。

〈略歴〉

2016年順天堂大学医学部卒業、順天堂大学医学部附属練馬病院で初期研修ののち、2018年4月より杏林大学医学部付属病院高度救命救急センターで勤務開始。現在に至る。



東京のEMSについてのプレゼンテーション



EMSについてグループディスカッション

マシガザリングと健康危機管理

国立保健医療科学院健康危機管理研究部 上席主任研究官
齋藤 智也

東京オリンピック・パラリンピックを来年に控える日本であるが、3ヶ月後にはラグビーW杯も控えている。多数の観客が国内外から押し寄せる「マス・ギャザリング」により、感染症をはじめとする健康危機の発生リスクの増加が懸念される。また、被害が大規模化したり、国際的に拡大しやすくなったりする懸念もある。加えて、より多くの関係者が存在することで対応を困難にするリスクもある。また、このように注目度が高いイベントでは、テロの発生リスクの増加も懸念される。医療需要の増加は、地域の医療リソースの通常需要に対する供給を圧迫することも懸念される。本講演では、このようなマシガザリングに伴う健康危機管理の課題と取り組みの現状について概説する。

〈略歴〉

医師、医学博士、公衆衛生学修士。慶應義塾大学医学部熱帯医学・寄生虫学教室助手・助教、同大グローバルセキュリティ研究所研究員を経て、2011年4月より厚生労働技官。厚生科学課健康危機管理対策室、結核感染症課を経て、2014年4月より現職。専門分野は公衆衛生危機管理、バイオセキュリティ。

イームス・ジャパン ニュースレター編集委員会
委員長 / 箱崎 幸也

URL <http://iems-japan.com>

E-mail: info@iems-japan.com

電話・FAX 03-5820-8178

住所 東京都台東区浅草橋3-19-3 セイワクレストビル